放射線規制及び災害に対応可能な実践力を有する放射線取扱主任者育成の取組み

静岡大学　大矢 恭久

原子力規制庁　原子力規制人材育成事業

1 教育プログラム概要

背景

放射線規制のための測定技術や取扱技術は、放射線防護の評価や原子力災害への迅速な対応力育成において極めて重要である

課題

系統的な教育プログラムを一大学で網羅して提供することは不可能であり、大学間連携が必要不可欠である

取組み

- 放射線教育に特徴のある大学が連携し、各大学の特色を活かした放射線測定および放射性物質取扱実習を統括して、1つの教育プログラムを構築する
- 原子力規制について理解するプログラムを通して、放射線安全に繋がる実践力を有する原子力規制人材を育成する

対象

理工薬看系の大学生・大学院生
放射線取扱主任者免状の取得をめざす人

カリキュラムの主な内容

- 放射線取扱主任者試験を目指した集中的な教育
- 大学間連携による、放射線防護や災害に係る業務に関連した放射線測定手法の実践

施設訪問と懇談

原子力規制行政とその取組みの理解

ゴール　放射線規制の現場を理解し、放射線規制行政において自分の役割を考えることができるプログラム

2 取組事例

放射線専門家育成のための放射線取扱主任者試験対策集中講義

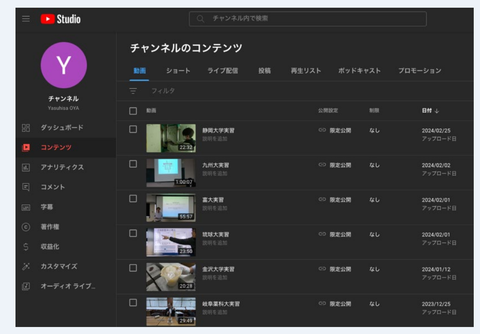
- 5日間の集中的な試験対策講座
- 集中講義用のテキストを独自に作成
- 対面とオンラインのハイブリッド講義とし、受験予定の全国の大学生・社会人が受講対象
- YouTube配信も実施



講義の様子

2025年度放射線取扱主任者試験対策集中講義日程

	8/1（土）	8/2（日）	8/3（月）	8/4（火）	8/5（水）
1-2限（8:40-10:10）	物理（近田）		原子力規制庁の説明 9:00-10:00	法令（矢永） 9:30-16:30頃	法令（矢永） 9:30-16:30頃
3-4限（10:20-11:50）		生物学（茨城大・鳥養）	実務（大矢）		
5-6限（12:45-14:15）	化学（近田）				
7-8限（14:25-15:55）					
9-10限（16:05-17:35）					



講義動画のYouTube配信

実習と原子力規制関連施設訪問

- 6大学が連携し、各大学の特色を活かした放射線測定・放射性物質取扱実習を3地区で実施
- 実習と組み合わせて原子力規制庁本庁、原子力艦モニタリングセンター、オフサイトセンターを訪問し、原子力規制の現場を学ぶ



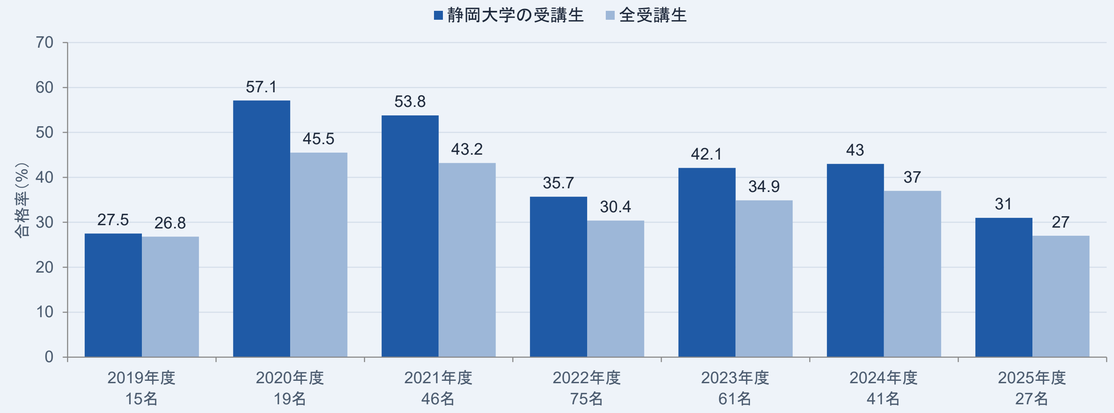
大学間連携による実習と施設訪問



原子力規制を学ぶ施設見学会

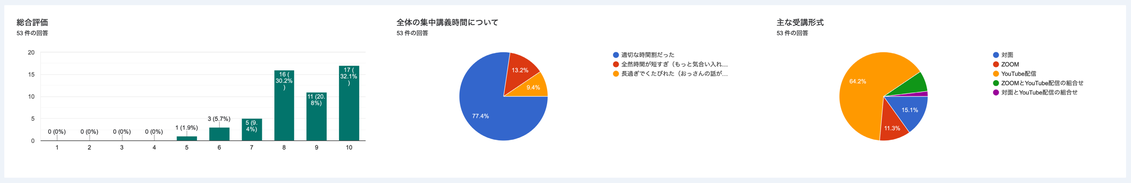
3 事業成果、効果等

集中講義：受講生の合格率

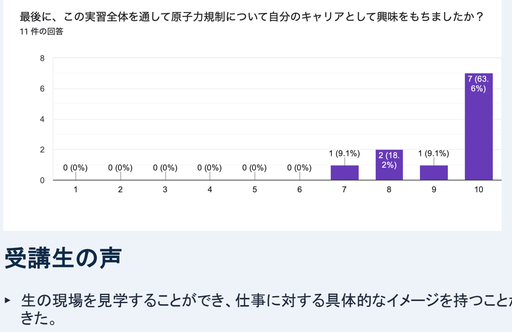


年度下の数字は全受講生のうちの合格者数

受講者アンケート（53件の回答）



実習・施設見学会：受講生の反応



63.6%

が「原子力規制を自分のキャリアとして興味をもったか」に最高評価の10を回答（11件中7件）

受講生の声

- 生の現場を見学することができ、仕事に対する具体的なイメージを持つことができた。
- 私は有益であったと考えます。教職を志望しているのですがそこで今回の見学会で見たこと、ものを伝えたり、退職後の選択肢として加えてみるのもよいのかなと感じました。
- 自分の目指す未来に対して、可能性とする選択肢を増やす上でとても役立っている。
- 就職において、原子力関係を考えている。なので職種、その内容、現状など知らないといけない情報がたくさんある。その情報を現地の人の話も聞きながら知ることができるのでとても有意義だなと感じている。
- 今回の見学会はとても有益だと感じている。参加するまでは原子力についてネガティブなイメージを持っていたが、過去の災害を経て有益なエネルギーをうまく使うためにたくさんの企業が奮闘していることを知ることができた。今後もこのような活動を通じて原子力について伝えてほしいと思った。
- 今まで少し曖昧だった今後の研究室での活動がどんなものにつながっていくのか、見通しを持つことができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。自分は放射線関連の研究室に配属されるので特にそう感じたが、そうでない人にとっても原子力に興味を惹かれる良いきっかけになると思う。漠然とした原子力へのイメージが具体的になる良い体験だった。
- 今回の実習に参加したことにより、原子力というものが関わりのないことでは無いと再認識しました。
- 実験に取り組めるのは楽しかった
- 人材が足りていないことをもっとアピールすべきだと思う。
- 今回の実習は自分の実験と同じ測定器、また試料を使用していたためとてもいい経験ができました。
- 今回の実習で全ての実習を終えました。他の大学の設備を見たり、自分の大学ではできない実験をしたりでき、とてもいい経験になりました。ありがとうございました。
- 放射線は危険という情報だけが一人歩きしてもたらす便益、危険性を取り除く技術や努力、そもそも放射線が人体や環境に実際に与える影響を一般の方々に正しく理解してもらうための場をより積極的に設けることが重要だと考えた。
- 放射線が実際に人体や環境に与える影響や、放射線のもたらす便益等を正しく知ってもらうための場を多く設ける必要があると考えました。

4 今後の展開

放射線規制及び災害に対応可能な実践力を有する放射線取扱主任者の育成を、原子力規制人材育成事業の下で進めてきた。大学間連携と原子力規制庁の協力の下、実習と規制庁施設見学を組み合わせたプログラムを実践してきた。受講した学生からはほぼ好意的な感想が得られたが、体験的な実習を希望する学生が多かった。今後も充実した実習と施設見学になるよう計画していきたい。

※本事業は、原子力規制庁・令和8年度原子力規制人材育成等推進事業費補助金（原子力規制人材育成事業）の補助を受けたものである。



新聞掲載記事